

「卒業生代表謝辞」

退職後に入学、経営学部首席で卒業

「スタートに年齢制限はありません」

本年度卒業式において、大学の卒業生代表謝辞を述べる、経営学部の佐藤勝人さん（68）＝岐阜市岩井＝は、元信金マン。退職後、本学経営学部^{きとうがくぶ}に入学し、学部首席で代表謝辞を務めます。

佐藤さんは、大学進学を志し、普通科高校の受験準備を進めていましたが、中学3年の秋に父親が事故死。やむなく進路を商業高校に変更し、卒業後地元信用金庫に就職しました。40年余で12支店をめぐり、3店の支店長を歴任。建設会社出向時には、常務も務めました。

退職を迎え、憧れの世界一周旅行も考えましたが、「人生でやり残したことがある」と進学を決意しました。その時、背中を押してくれたのが江戸時代の儒学者・佐藤一斎の言葉。「壮にして学べば老いて衰えず、老いて学べば死して朽ちず」。進学後は、金融の現場で感じてきたことと理論が結びつき、ほとんどの科目でS（最優秀）を取得しました。大学2年には、海外企業研修に参加しました。マレーシアの自動車部品工場で機械化の費用対効果を試算し、部品の保管方法の改善を提案。感謝状を受けました。卒業論文では、「葬祭ビジネスの研究」と題して、葬祭の歴史、現況、今後の葬祭市場の動向をまとめました。

佐藤さんは大学4年間の学びを「素晴らしい先生、陽気な同級生、留学生にめぐり合うことができました。講義を受けるたびに、知っているつもりがいかにも無知だったかを痛感する毎日でしたが、充実した日々を過ごすことができました」と振り返り、「63歳から大学に入学しましたが、スタートには年齢制限はありません。大満足の中で卒業の日を迎えることができました。妻に『ありがとう』と心を込めて伝えたい」と話しました。また、同級生、後輩には人生の先輩として「一隅を照らす人間になってほしい」とエールを送ります。

卒業後については、「3回読み終えている司馬遼太郎『街道を行く』の全行程を訪ね、作家と同じ場所に立ち、空気を吸い、雰囲気を感じたい」と話しています。

（備考）

- ・金融機関（支店長）時代から企業経営者との付き合いが続いており、アドバイザーとして現在も継続して決算発表会に出席。経営方針や財務内容に対する意見、人事などについて提案している。
- ・ボランティア活動も積極的に行っている。岐阜市岩井自治会長、岩井区副区長、藍川校区自治会連合会副会長、社会福祉協議会藍川支部副支部長、藍川まちづくり協議会副会長など多数。